

○長崎県名誉県民一覧

氏名	顕彰年月日	功績等
彫刻家 (故)北村 西望 氏 (きたむら せいぼう) 明治17年12月16日 南島原市生	昭和56年1月1日	東京美術学校(現東京芸術大学)在学中の明治41年に日展の前身である文展に「憤闘」で初入選されて以来、文展で多くの賞を受賞された彫刻家。 本県においても、昭和30年に5年近い歳月を費やした代表作である「長崎平和祈念像」が平和公園に設置されている。また、南島原市南有馬町や島原市にある西望記念館には数多くの作品が展示されている。 県庁舎入口付近に設置してある「獅子吼像」は、昭和58年に西望氏百歳の慶賀に際し県に寄贈されたもので、旧県庁舎に設置してあったものを県庁舎移転時に移設したものの。昭和33年には文化勲章を受章されている。
彫刻家 (故)富永 直樹 氏 (とみなが なおき) 大正2年5月18日 長崎市生	平成2年3月22日	東京美術学校(現東京芸術大学)在学中の昭和11年に日展の前身である文展に「F子の首」で初入選されて以来、日展で多くの賞を受賞された彫刻家。 本県においても、昭和26年に「原爆子供記念碑(少年平和像)」「(長崎市立城山小学校)、昭和36年に「トーマス・ブレーク・グラバー之像」(グラバー邸)、昭和50年に原爆戦災復興記念碑として「椿咲く丘」(平和公園)が設置されるなど数多くの作品が見られる。 県庁舎には、2階協働エリアに平成元年の日展出品作である「クリスマス・イヴ」、駐車場棟屋上に昭和54年の日展出品作である「若き日のシーボルト」が設置されている。 平成元年には文化勲章を受章されている。
生物学者 (故)下村 脩 氏 (しもむら おさむ) 昭和3年8月27日 京都府生	平成20年11月26日	京都府生まれであるが、ご両親の出身県である本県の長崎県立諫早中学校、長崎医科大学附属薬学専門部(現長崎大学薬学部)を卒業。卒業後は長崎大学薬学部、名古屋大学を経て昭和35年に渡米、一旦昭和38年に日本に戻られるものの、昭和40年に再渡米され、以後アメリカを主たる研究活動の場として活動された生物学者。 多年にわたり、海洋生物学の分野において生物発光の研究に努め、光を当てると蛍光を発する緑色蛍光タンパク質(GFP)を発見された。 このGFPの性質を利用した細胞内のタンパク質の動き、位置を可視化する技術は、細胞が生きのまま、中のタンパク質を観察する手法として、生物学、免疫学、がん研究など広く生命科学全般の新たな展開を可能にした。 この功績により平成20年にノーベル化学賞を受賞されている。

○長崎県名誉県民一覧

氏名	顕彰年月日	功績等
<p>日本画家</p> <p>(故)松尾 敏男 氏</p> <p>(まつお としお)</p> <p>大正15年3月9日</p> <p>長崎市生</p>	<p>平成25年10月1日</p>	<p>17歳で日本画界の重鎮であった堅山南風氏に入門、昭和24年に第34回再興院展に初入選されて以来、日本美術院を中心として精力的に作品を発表し、同展の文部大臣賞と大観賞を計5回受賞するなど多くの賞を受賞された日本画家。</p> <p>平成21年から日本美術院理事長に就任され、日本画界の第一人者として、日本画の振興、発展に貢献された。</p> <p>本県に対しても、「長崎旅情」など長崎県美術館等へ優れた作品を数多く寄贈されるとともに、本県への院展の受け入れに力を注ぎ、長崎で院展が開催された折には、作品解説や指導会を開催するなど、後進の育成にも尽力され、こうした活動から本県では、次第に日本画を志す人材が多く現れ、長崎県日本画協会の設立につながった。</p> <p>平成24年には文化勲章を受章されている。</p>
<p>小説家</p> <p>カズオ・イシグロ 氏</p> <p>昭和29年11月8日</p> <p>長崎市生</p>	<p>平成30年3月28日</p>	<p>長崎で5歳まで過ごした後、英国に移住され、昭和58年に英国に帰化された本県出身の作家。</p> <p>昭和57年に第二次世界大戦直後の長崎を舞台にした処女作の「遠い山なみの光」で本格的に作家活動を開始した後、平成元年「日の名残り」で英語圏最高の文学賞とされるブッカー賞を受賞されて以来、数々の文学賞を受賞されるとともに、大英帝国勲章やフランス芸術文化勲章を受章されるなど、その功績は世界的に高く評価され、小説家としての確固たる地位を確立された。</p> <p>平成29年には、本県出身者としては2人目の快挙であるノーベル文学賞を受賞された。受賞後に、長崎に対する特別な思いを語るなど、長崎が自身の原点であるとの思いを持ち続け、今もなお、長崎のことを大切に思いながら、世界的に活躍されている。</p>